

事業実施主体等取組評価報告書（産地競争力の強化を目的とした整備事業）

（青森県 平成27年度）

市町村名	事業実施主体名	メニュー① （対象作物・畜種等名）①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①											成果目標の具体的な実績①	メニュー② （対象作物・畜種等名）②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 （工種、施設区分、構造、規格、能力等）	事業費 （円）	負担区分（円）				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考	
				計画時 （平成18年）	1年後 （平成19年）	2年後 （平成20年）	3年後 （平成21年）	4年後 （平成22年）	5年後 （平成23年）	6年後 （平成24年）	7年後 （平成25年）	8年後 （平成26年）	9年後 （平成27年）	目標値 （平成27年）				達成率	計画時 （平成24年）	1年後 （平成25年）	2年後 （平成26年）	3年後 （平成27年）	目標値 （平成27年）				達成率	交付金	都道府県費	市町村費					その他
				達成率														達成率																	
青森県 （六戸町）	青森県	野菜（なごいも）	高品質化の割合30%以上	60.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	62.5%	61.2%	91.3%	3.2%	達成率3.2%と目標達成には至らなかった。	-	-	-	-	-	-	-	種子種苗生産供給施設（鉄骨硬プラスチック網室）1棟 999.6㎡	67,386,000	33,693,000	33,693,000	0	0	平成20年9月31日	・8月の多雨、日照不足と9月上中旬と10月の連続した降雨の影響により、いもの肩部から胴部にかけたのボリューム不足や曲がりが発生したことから、A・B品率は61.2%と目標には未達であったが、計画時から増加している。 ・今後は、現行の「あおもりながいも産地再生戦略」の評価、整理を行い、その結果を基に、品質、生産量の向上を目指した新たな「あおもりながいも産地力強化戦略」を策定する。引き続き、交付金を活用し導入した供給施設を核に、「優良種苗の生産体制を強化することによる種苗更新率の向上」を目指すほか、「植付時期を中心とした栽培技術の見直し」により高品質化を図る。	目標は未達成であったが、年々目標に近づいていることから、県の新たな戦略に基づき取組を強化することで、高品質化の割合を向上させることが可能と見込まれる。		

整備した種子種苗生産供給施設由来のながいもは平成25年から生産を開始

市町村名	事業実施主体名 (対象作物・畜種等名)①	メ ニュー ① 成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績① 達成率	メ ニュー ② 成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
			計画時 (平成24年)	1年後 (平成25年)	2年後 (平成26年)	3年後 (平成27年)	目標値 (平成27年)	達成率			計画時 (平成24年)	1年後 (平成25年)	2年後 (平成26年)	3年後 (平成27年)	目標値 (平成27年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
十和田市	十和田 おいら せ農業 協同組 合	土地利 用型作 物 (稲) 高温耐 性品種 の割合 を5.1ポ イント増 加	まっし ぐら 763.2h a	まっし ぐら 794.9h a	まっし ぐら 768.9h a	まっし ぐら 640.8h a	まっし ぐら 805.2h a	49.0%	高温耐性 品種まっ しぐらの 作付割合 が2.5ポ イント増 加した が、目標 達成に至 らなかった。	環境保全 型農業に 取り組む 農業者の 割合を 25.3ポ イント増 加	0% (0戸)	0% (0戸)	17.7% (63戸)	25.3% (90戸)	25.3% (90 戸)	100%	環境保全 型農業に 取り組む 農業者の 割合が 25.3ポ イント(90 戸)向上 し、目標 を達成し た。  殺菌乾燥 貯蔵施設 生初40t× 3基  火力乾燥 機増設工 事 乾籾 1,000t増 設  合計能力 乾籾 4,300t	250,635,000	119,350,000	0	0	131,285,000	平成 25年9 月20 日	・近年のコンバインの大型化により、刈取能力が高まり、火力乾燥機増設以前は、荷受能力205t/日(生籾)を超える日があったが、整備後は荷受能力を超えることなく、順調に荷受が行われ、適期収穫が可能となった。 ・環境保全型農業に取り組む農業者の割合は25.3ポイント(90戸)の増加となり、目標を達成した。 ・「まっしぐら」の作付割合は95.1%で、研修会等での呼びかけや、CE利用数量による還元等の取組を行ったが、目標(97.7%)には達しなかった。 ・登熟期が高温傾向に推移していることから、今後は、品質向上に向け、高温耐性品種である「まっしぐら」の優位性を生産者に周知徹底する。また、加工用米、備蓄米を含めた主食用米全体の作付が飼料米作付けへシフトしていることから、主食用米・加工用米・備蓄米・飼料用米それぞれの経営試算データを提示しながら「まっしぐら」による加工用米、備蓄米への誘導を図ることにより、目標達成を目指す。 ・なお、受益地区全体の水稻作付面積は、主食用米から飼料用米へ移行したため、計画面積の82%程度となっている。	・火力乾燥機の整備により、地域の刈取能力に比べて乾燥能力が追いつかない状況が改善され、適期収穫が可能となった。これにより、カントリー利用米の品質が向上したことで評価が高まり、実需者との取引数量が増加している。 ・環境保全型農業への取組として、エコファーマーへの誘導を支援したところ、目標達成することができた。一方、耐暑性品種の導入については、栽培研修会等で「まっしぐら」への切替を呼びかけたが、専用品種による飼料用米が増えたため目標未達となった。28年度以降は、近年の登熟期が高温傾向に推移していることなどを踏まえ、栽培研修会等で「つがるロマン」から「まっしぐら」への誘導をこれまで以上に粘り強く進めていくことにより、目標達成に向けた取組を支援していく。 ・なお、受益地区全体の水稻作付面積が計画面積に至っていないが、これは主食用米から飼料用米に移行したことによるものであり、やむを得ないものとする。		

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	成果目 標の具 体的な 内容①	事業実施後の状況①						成果目 標の具 体的な 実績① 達成率	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	成果目 標の具 体的な 内容②	事業実施後の状況②						成果目 標の具 体的な 実績② 達成率	事業内容 (工種、 施設区 分、構 造、規 格、能 力)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月 日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				計画時 (平成 22年)	1年後 (平成 25年)	2年後 (平成 26年)	3年後 (平成 27年)	目標値 (平成 27年)	計画時 (平成 22年)				1年後 (平成 25年)	2年後 (平成 26年)	3年後 (平成 27年)	目標値 (平成 27年)	交付金	都道 府県 費				市町 村費	その他						
				出荷量 4,222t 上位規 格品 2,309t	出荷量 4,350t 上位規 格品 2,523t	出荷量 4,737t 上位規 格品 2,951t	出荷量 5,055t 上位規 格品 3,177t		出荷量 4,350t 契約取 引量 1,405t				出荷量 4,737t 契約取 引量 2,023t	出荷量 5,055t 契約取 引量 1,825t															
五戸町	八戸農業協同組合	野菜(ながいも)	秀品その他品質の上位規格品の割合3ポイント以上増加	54.7%	58.0%	62.3%	62.8%	69.7%	54.0%	野菜(ながいも)	全出荷量に占める契約取引の割合5ポイント以上増加	0.0%	32.3%	42.7%	36.1%	33.7%	107.1%	目標を2.4ポイント上回った	長芋洗浄選別施設一式 日最大処理量1,500コンテナ 建物3,758.1㎡うち冷蔵庫392㎡	847,176,750	403,417,000	0	0	443,759,750	平成25年4月23日	・天候不順による春掘りの遅れと栽培技術の個人差が品質の低下につながったため、上位規格品割合の目標には達しなかったが、計画時に比べ8.1ポイント増加した。 ・今後は上位規格品割合向上のため、優良種苗の供給のほか、関係機関と連携し個別巡回や栽培講習会の実施、緑肥栽培マニュアルの活用により栽培技術の向上・平準化を図る。 ・契約取引割合については目標を達成したが、継続して取引業者等へ販売要請等を行い、更なる向上を図る。	・秀品率の目標は達成していないものの、ながいも洗浄選別施設の集約後、施設利用量及び平均販売単価は、計画時と比較し、ともに3割増となっている。 ・県として取り組んでいる優良種苗の供給体制の強化や、緑肥栽培マニュアルによる土づくり、栽培講習会による基本技術の徹底により生産者個々のレベルアップを支援し、目標が達成されるよう指導する。		
弘前市	(有)ゴールド農園	果樹(りんご)	全出荷量に占めるブランド品の割合を1ポイント以上増加	37.3%	46.1%	47.4%	52.5%	42.3%	304.0%	果樹(りんご)	全出荷量に占める契約取引の割合を3ポイント以上増加 全出荷数量8,281t ブランド品の出荷量4,350t	28.2%	45.1%	42.7%	42.2%	34.2%	233.3%	契約取引の割合は42.2%となり目標を上回った。 全出荷数量8,281t 契約取引の出荷量3,498t	集出荷貯蔵施設 建屋(2511.28㎡) C A冷蔵施設(1,913t) 普通冷蔵施設(659.2t) ハイマストフォークリフト2台	744,744,000	344,840,000	0	0	399,904,000	平成26年7月20日	・出荷時期に合わせた冷蔵保管が可能となり取引先の要望に応じた出荷ができた。 ・全出荷量については、気象災害(雪害による樹体損傷や暴風による落果等)のため目標値に達しなかった。 ・今後、生産者に対し、徹底した栽培指導を行い生産量を増加させるとともに「薬とらずふじ」の販売有利性を説明し「薬とらずふじ」を主体とした出荷量を増加させる。	・集出荷貯蔵施設の整備により、高品質りんごの長期安定出荷による有利販売が可能となった。 ・今後、栽培指導等を強化し、生産者の栽培技術の向上と、園地の生産性を高め、出荷量を増加させる。		

都道府県平均達成率	121.5%	総合所見	<p>○目標年度が27年度となっている4地区のうち1地区で目標を達成している。</p> <p>○目標を達成できなかった3地区(十和田市、八戸農業協同組合(十和田市)、青森県(六戸町))についての県の対応は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十和田市農業協同組合については、平成28年度の数値が確定しており、平成28年度は目標達成の見込み。</li> <li>・上位規格品の割合増加に向けた優良種苗の供給、栽培講習会に個別指導の実施、緑肥栽培マニュアルの活用。</li> <li>・高品質化の割合増加に向けた新たな「あおもりながいも産地再生戦略」の作成、植付時期を中心とした栽培技術の見直し、優良種苗の生産体制を強化することによる種苗更新率の向上。</li> </ul>
-----------	--------	------	---